

「沖縄を伝えていく」

学校法人興南学園 興南中学校 3年生 おおみじや 大見謝 あゆむ 歩夢

あなたは、県外や外国から来た観光客に「沖縄はどんなところ。」と聞かれたら、最初に何と答えますか。「海がきれい。」「自然が豊か。」多くの人は、こんなふうに答えるのでしょうか。確かに、「海がきれい。」や「自然が豊か。」などは、どれも間違ったことではありません。それは沖縄にとって、誇れることだと思います。しかし、先ほどの質問に対して「日本で唯一、一般住民を巻き込んだ地上戦があったところ。」と答える人が、どれだけいるのでしょうか。私の周りではほとんどいません。それはなぜでしょうか。きっとそれは、私たち若い世代が、戦争の悲惨さ、無意味さを身を持って体験したことがないから、最初に答えないのです。だからといって、「戦争は体験すべき」と言いたい訳ではありません。むしろ、「戦争は絶対にすべきことではない。」と言いたいぐらいです。私は、海や自然だけではなく、沖縄が背負った歴史なども含めて沖縄について知ってほしいのです。では、どうすれば沖縄の光の部分だけでなく影の部分も知ってもらえるのでしょうか。それは、戦争のない未来、つまり「平和な未来」について考える機会を設け、そこで考えたこと、感じたことなどを、相手に伝える。これが必要だと私は思います。

私は、学校のクラブの取り組みで「県外から来た修学旅行生たちに首里城ガイドをする」という活動を行っています。県外から来た修学旅行生たちに首里城の中を案内することで、沖縄の辿ってきた歴史を伝えています。私は今からちょうど二年前、中学校一年生の時から首里城ガイドを始め、今でも続けています。しかし、私はこの活動をする前から首里城について興味があったという訳ではありません。それまでは、「首里にお城があるのだな。」という感覚でしかなく、詳しく知りたいという意欲もありませんでした。ガイドの事前学習として、実際に現地へ行き、首里城について新しい知識も増えましたが、まだその時点でも「首里城はいろんな所がきれいだな。」という思いだけでした。しかし、いざ修学旅行生たちに説明をしてみると、「なるほど、首里城は戦争で焼けてしまい再建されたからきれいなのか。」という思いに変わってしまいました。この変化の理由は、相手に伝えることをしたからです。相手に物事を伝えることは、実は自分の理解を深めることになるのだと、気付きました。これは勉強でも同じで、友達に問題の簡単な解き方を教えると、「いろんな過程があってこの解き方になるのか」と深く理解できます。

そう考えると、「平和な未来」についてはどうでしょうか。今の小学生や中

学生は、遠足などで平和祈念資料館へ行くことがあります。それはつまり、戦争の悲惨さや「平和な未来」について考える機会が設けられているということです。しかし、遠足から帰った後は、作文などを書いて終わる。つまり、相手に伝えることをせずに終わっているのです。多くの学校がこのパターンなのではないでしょうか。まずは、自分の思いを身近な人たちに伝えることが大切です。そうすると、その考えを受け取る側も伝えた側も「平和な未来」について、自分事と思えるようになります。

周りをきれいな海に囲まれている沖縄には、毎年多くの人がリゾート気分で観光に来ます。美ら海水族館やビーチで遊び、最後に平和祈念資料館へ行って地元に戻る、という観光客は多いはずですが、その後はどうでしょうか。多くの人は、「楽しかった。」「また行きたい。」で終わってしまっているはずです。平和祈念資料館に関しては「何も感じなかった。」と他人事のように思う人もいるかもしれません。このような人を減らすためには、観光客が「美ら海水族館はこうだからすごい。」「平和祈念資料館ではこんなことを学べた。」などと、地元に戻って伝えたいようになるように工夫すべきです。ならば、観光客をそう思わせるためには、どうすればいいのでしょうか。それは、私たち沖縄県民、特に中学生や高校生が沖縄の観光地をガイドするのです。中学生や高校生がガイドすることで、観光客はインパクトを受け、魅力やすごさをより深く知ることができるのです。深く知ると、今度は思いを共有するために、誰かに伝えたいと思えるようになります。その結果、沖縄に興味を持つ人が増え、観光客も増えていくと思います。

ガイドをすることには他にも利点があります。それは、それぞれの観光地の歴史も自分は理解できる、という点です。

このように、相手に伝えることは、相手が理解できるのはもちろん、自分も沖縄の魅力や歴史も深く理解できます。まさに一石二鳥なのです。そうすれば、一番最初の質問に対して「日本で唯一、一般住民を巻き込んだ地上戦があったところ」と答える人も徐々に増えてくると思います。

みなさん、相手に伝えることをしてみませんか。